



ご主人の俊輔さんと長男の慎平くんと一緒に

🎬 エピソード3

## 親の学び

市川市 岩澤 由佳さん

「子どもの湿疹が治って、本当によかった。でも、先生に感謝している理由はそれだけじゃないんです」

笑顔でそう語る岩澤田佳さんご夫妻の長男・慎平くんは、ただれのような湿疹ができたのは生後4ヶ月頃のこと。「顔、耳、手首、足首にまで一杯できてしまったため小児科へ連れていくと、アトピーと診断されました。出していたいたお薬を付けると、最初は効果てきめんだったのですが、すぐに効かなくなり、ひどくなる一方で…」

心配した岩澤さんが色々とりサーチして出会ったのが、市内で開業しているベテラン皮膚科医でした。

「先生は、初診の時からとにかく丁寧に説明してくださいました。赤ちゃんの皮膚の特徴や、うちの子の皮膚の現状。日常生活の中で気をつけるべきことも、具体的に細かく教えて下さいました。それに、質問したくてもうまく言葉にできないようなことも、こちらにどういう不安があるのかを察して、良いアドバイスをくださるので感激しました」

そしてしっかり納得できた岩澤さんは、医師と二人三脚で慎平くんの湿疹の治療をスタート。そこで出された薬は、みるみる皮膚が綺麗になるような強い薬

ではありませんでしたが、岩澤さんは、長い目で治療していかうと前向きに考えられるようになっていました。

「湿疹がじゅくじゅくしている部分には、薬を塗った包帯を使うんですが、その交換が大変。1日に2回の交換だけでもひと苦労なのに、ひっかいて取ってしまったたり、交換したそばから離乳食を付けて汚し、キリがないこともしばしば。」

でも『必ず治りますから続けてあげてください』という先生の言葉にはいつも親身さと頼もしさが感じられたので、私も頑張る続けることができました」

そして医師の言葉どおり着実に効果は現われ、しつこかった湿疹は今では足首にわずかに残るのみ。それも成長と共に治るから心配ないと言われているそうです。

「子育てをしていたら、大変でも、すぐには結果が出なくても、続けなければいけないことにこれから何度もぶつかるんだから、こんなことでくじけていられない。そして、親にとって簡単便利なことが、イコール子どもに良いことではないんだと、気づくことができました。それも、先生のお陰だと感謝しています」

その先生との出会いは、慎平くんの湿疹を治しただけなく、ママをひとまわり大きく成長させてくださったようです。

患者さんとお医者さんの  
ひとこまストーリー募集!

「こんな一言で勇気が出た」「不安な気持ちが安らいだ」など、体験エピソードなどをお寄せください。本誌に掲載させていただきました方には、図書カードをプレゼントいたします。また「文章は苦手」という方は、編集部が取材にまいりますので、下記までご連絡ください。

- ◆投稿先: 〒260-0026 千葉市中央区千葉港 7-1 社団法人 千葉県医師会 広報課「ミレニアム」係/ Eメール kouhou@office-cma.or.jp
- ◆文字数: 1,100 文字以内 (投稿用紙の様式は問いません) ◆プレゼント: 本誌掲載された方 図書カード